

# 犬と私の10の約束

2008(平成20)年3月16日 鑑賞〈梅田ピカデリー〉

★★★



監督＝本木克英／原作小説＝川口晴『犬と私の10の約束』（文藝春秋刊）、サイトウアカリ、澤本嘉光『犬と私の10の約束』（毎日新聞社刊）／出演＝田中麗奈／福田麻由子／加瀬亮／佐藤祥太／豊川悦司／高島礼子／池脇千鶴／布施明（松竹配給／2008年日本映画／117分）

……「犬の10戒」とは……？「犬と私の10の約束」とは……？「10年」をキーワードとして展開される犬と人間との絆を温かく描く物語は、家族そろって楽しめるよかったですもの。もっとも、それは平和で豊かなニッポンが前提の話だが……。ちなみに、BoAの主題歌『be with you.』は大ヒットの予感だから是非マスターを！

## 「犬の10戒」とは？「10の約束」とは？

この映画の原作は書き下ろし小説『犬と私の10の約束』だが、映画化のきっかけはインターネットで広まった作者不明の短編詩『犬の10戒』にあるとのこと。そして、これには犬が私たちにしてほしい10の約束が語られているらしい。

他方、映画の中で、14歳の一人娘あかり（福田麻由子）に対して母親斉藤芙美子（高島礼子）が、小犬のソックスを飼うについて守らなければならないと教えるのが「10の約束」。これは必ずしも「犬の10戒」と同一ではないが、たとえば「私にも心があることをわすれないで」「言うことを聞かないときは理由があります」など、その1つ1つは「なるほど」と思えるもの。しかし、さてその約束をどこまできちんと守れるかとなると、かなり厳しいもの……。

## ソックスは母親の形見……？

この映画の最初の舞台は函館。あかりの父親斉藤祐市（豊川悦司）は大学病院に勤める前途有望な医師らしく（？）、彼の家族が住んでいるのは立派な庭つきの一戸建て。今日は娘の14歳の誕生日だが、結局この日も父親の帰りは遅く、ケーキを一緒に

食べることができなかったが、そりゃ仕方なし。

そんな幸せな斉藤家に発生した大問題は、あんなに元気でやさしく明るかった美美子が突然体調をこわし入院したこと。そのうえ一時退院できたものの、再度入院するとそのまま帰らぬ人に。したがって、美美子がソックスと名づけた小犬は、いわば母親の形見としてあかりに寄り添うことになったわけだ。

## 父親の人生の選択は？

有能な医師として大学病院に勤めていた祐市が、助教授として函館から札幌へ栄転することになったのは喜ばしい限り。しかし、そうなるとあかりの転校の問題が生じるし、仮の住まいとなる職員寮はペット厳禁だから、ソックスを連れていくことができないという問題も。そこで、あかりはギタリストを目指している同級生の星進クン（佐藤祥太）の家にソックスを預けることになったのだが、それによって札幌で生活するあかりの寂しさは相当なものに。だって、ソックスはいないし、父親の帰りは毎日遅くなるばかりだから。

そのうえ、パリの音楽学校への進学が決まった進を見送るべく、祐市のバイクで空港へ駆けつけている最中、祐市のケータイが鳴り、急遽執刀のため病院に戻らなければならないことに。しかもハラが立つのは、その手術は簡単なものだったから、休暇の日にわざわざ祐市を呼び出さなくてもいいのに、有力者からのお声がかかりだから、となったもの。これではダメだ、娘も俺も……。そう考えた祐市が潔く辞表を提出したからビックリ。

彼の決断は、函館の家を買い戻して再びあかりとソックスと一緒に住み、自分は家事を覚えながら自宅を改造して斉藤医院を開くというもの。大学に勤務する医師にはこういう選択肢があるからまだ恵まれているが、同時にそれは医師としてエリートの道を諦めることだから、相当の決断が必要だったのでは……？

## やはりカエルの子はカエル……

それから7年。22歳になったあかり（田中麗奈）は、獣医を目指す大学生となっていた。斉藤医院も順調で「あっち向いてホイ！」が得意なソックスは斉藤医院の看板犬としてすっかり人気者に。

そんなあかりが、ある日親友の井上ゆうこ（池脇千鶴）と一緒に歩いている時見つ

けたのが、星進のギターリサイタルの広告。立派に成長したものだ。ゆうこの積極的な働きかけによって進の楽屋を訪れ、進と再会したあかりの様子をみていると、明らかに恋の予感が……。

大学を卒業したあかりは獣医として旭川の旭山動物園に就職することになったから、カエルの子はカエルとはよく言ったもの。もっとも、獣医を選択したのは14歳の時からソックスと家族同様の触れ合いを続けてきたことが大きな要因だったことは明らか。社会人1年目のあかりがいろいろと忙しいのは当然。そのため娘を送り出した斉藤家では、祐市がソックスと共に少し寂しい生活を余儀なくされることに。

### もう1つのエピソードは？

ソックスと少女時代のあかりとのエピソードの1つが、母親死亡のショックの中であかりの身体に起きたある異変。そのキズが、ソックスとのどんな交流の中で癒されたのかはあなた自身の目で観てもらいたいが、それに続くエピソード2は交通事故によって生まれた進の後遺症と心の痛み。つまり、前途有望なギタリストとしてデビューしたばかりの進が交通事故の後遺症によって指が思うように動かないという悩みを抱え、閉じこもってしまったわけだ。そこであかりは「もう1度私を助けて」とソックスにお願いしたのだが、さてソックスに備わっているらしい「人を癒す能力」とは……？

### 私は十年くらいしか生きられません……

人間の寿命は70～80歳だが、犬の寿命はほぼ10年。獣医として充実した生活を送っていたあかりだったが、進から「知り合って10年」というメールをもらおうとソックスは既におばあさんになっていることを改めて認識せざるをえなかった。また同時に何かと忙しい最近のあかりは、あまりソックスにかまってやれないばかりではなく、ソックスのために何かと自由が制約されるとボヤクようになっていたから、こりゃ10の約束違反では……？

進の心のキズを癒してくれたソックスにあかりは、「ソックス、ごめんね」と抱きしめたが、既にソックスの足腰はかなり弱っているよう。美美子との間で交わした10の約束の9番目は「私は十年くらいしか生きられません。だから一緒にいる時間を大切にしようね」、そして10番目は「あなたとすごした時間を忘れません。私が死ぬと

きおねがいます、そばにいて」というもの。いよいよ、そんな日が近づいてきたことを覚悟しなければ……。

### 悲しみの涙と喜びの涙が……

第80回アカデミー賞作品賞ノミネート作品は「地味！ 暗い！ でも、すばらしい！」ものが多く「ダーク・オスカー」と呼ばれた。また、私が最近観た洋画は、3月12日の『タクシデルミア ある剥製師の遺言』（06年）や3月13日の『愛おしき隣人』（07年）など難解なものばかり。これに対して邦画は、3月11日に観た『西の魔女が死んだ』（08年）もこの『犬と私の10の約束』も家族そろって楽しもうという、いわば「旧文部省推薦」のような映画ばかり。それ自体は何も悪くないのだが、それは、ねじれ国会の中で政治が機能停止となり、株安、円高、原油高と経済が三重苦にあえぐ中、何の対策も示さずノー天気な様子見に終始している今の日本の状況を反映しているのかも……？ ソックスが息を引きたる悲しみの涙と、あかりが進とウエディングを挙げる喜びの涙の両方を味わいながら、思わずそんなことを考えてしまったが……。

### BoA の曲を覚えなければ……

映画がスタートする前に何回も流されていたのが女性歌手によるきれいなメロディラインの曲。その声もどこかで聴いたことがある。さてこれは誰だ？ 曲名は？

「約束」をテーマとした歌詞だから、この映画の主題歌であることは明らかだが、これはきっとカラオケでもヒットする曲だと直感！ そこでパンフレットをめくってみると、その声の主は私の大好きな韓国人歌手の BoA だった。BoA の名曲『JEWEL SONG』は私の持ち歌だから、それにプラスしてこの『be with you.』をマスターしなければ……。

2007(平成19)年3月17日記